

令和元年度 下水道事業会計決算の概要

令和2年(2020年)12月
札幌市下水道河川局



1 公営企業会計の特色

- 公営企業会計の収支は**収益的収支**と**資本的収支**の2種類に区分されます。

【収益的収支】

- ・ 施設の運転、維持管理に関する収支
- ・ 1年間の経営成績を表す

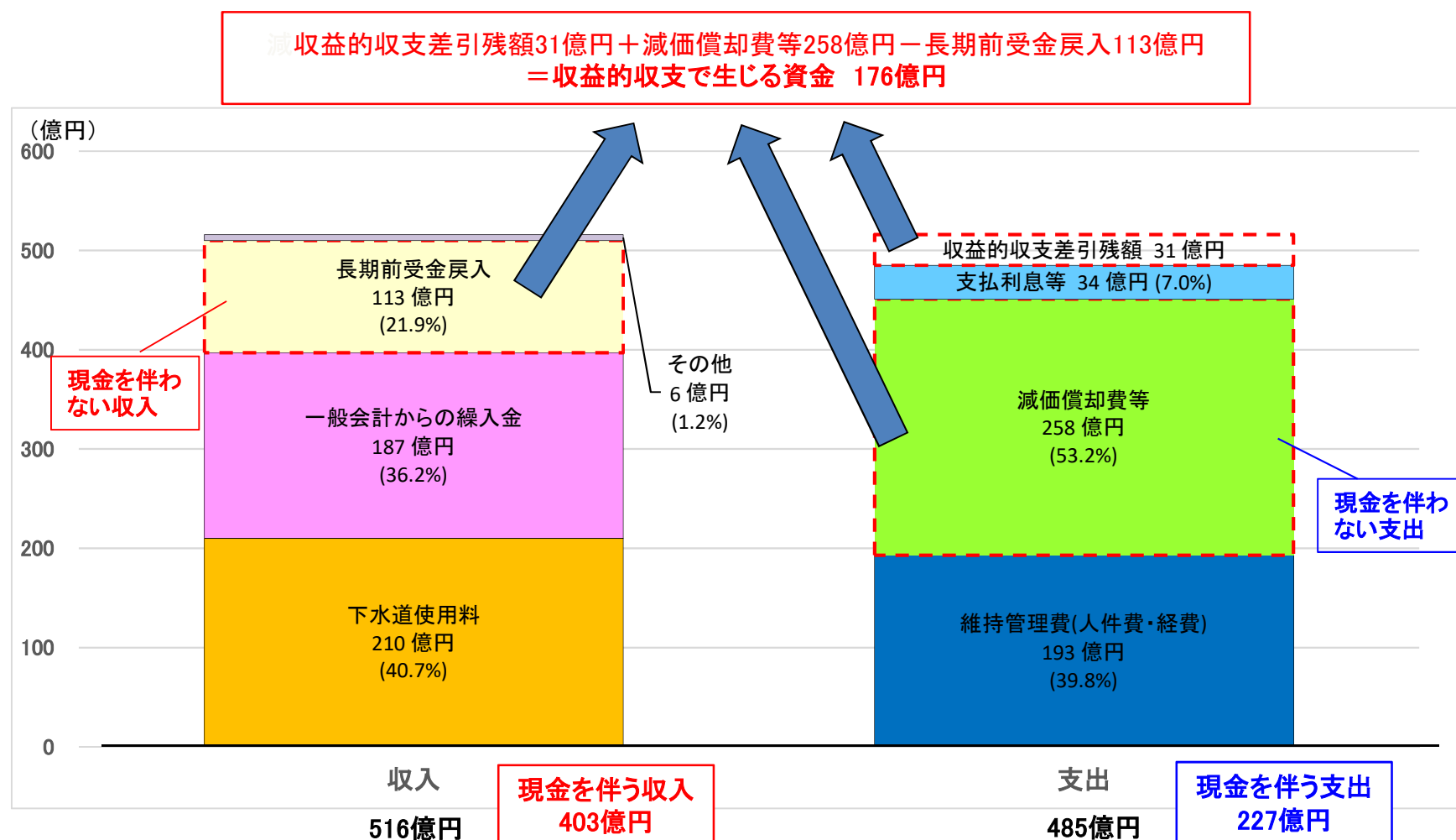
【資本的収支】

- ・ 施設の建設・改築に関する収支
- ・ 収入と支出の効果が複数年に及ぶ

- 収益的収支で生み出した資金は、資本的収支の収支不足を補うために使用します。

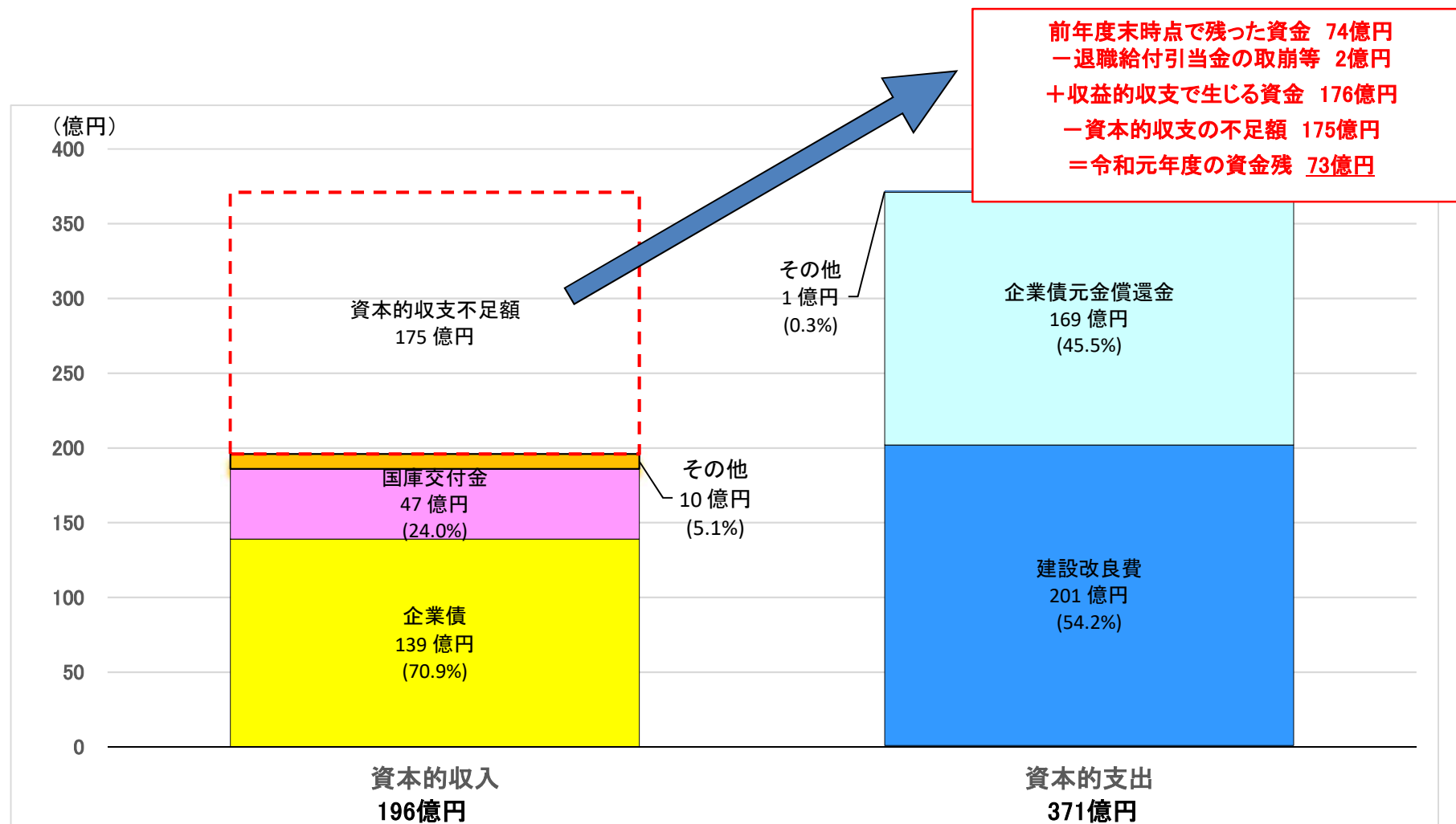
2 令和元年度決算の概要(収益的収支)

- 収益的収支は31億円の黒字となり、減価償却費等による内部留保資金と合わせて176億円の資金を生み出しました。



2 令和元年度決算の概要(資本的収支)

- 資本的収支は175億円の資金不足となり、収益的収支で生み出した資金と前年度の資金残で補てんしました。



2 令和元年度決算の概要(令和元年度予算との対比)

【収益的収支】

収入では消費税還付金の発生、支出では電気料金や修繕費の不用等による維持管理費の減等があり、収支は9億円好転しました。(22億円→31億円)

【資本的収支】

収入では建設改良費の減に伴う企業債及び国庫交付金の減、支出では契約差金や繰越による建設改良費の減等があり、収支は7億円好転しました。(△182億円→△175億円)

【資金残】

収支の好転などにより、資金残は18億円好転しました。(55億円→73億円)

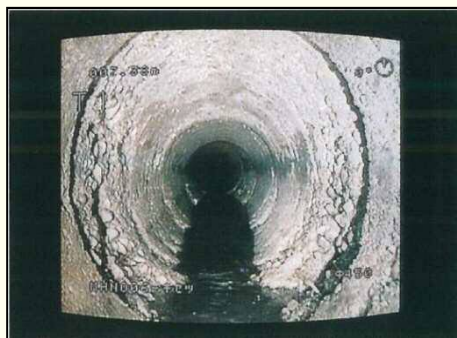
3 令和元年度決算の主要事業

【下水道施設の再構築】 老朽管の改築

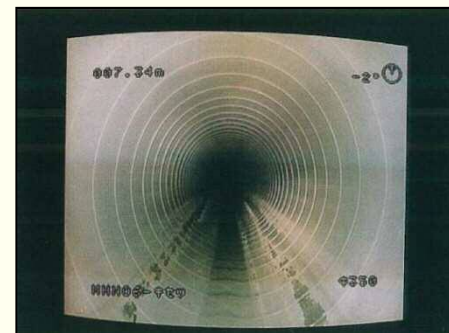
- 札幌市の下水道施設は、昭和40年代から50年代に集中的に整備を進めたため、将来、耐用年数(50年)を超える管路の急増が見込まれます。
- 今後は、管路の状態や不具合の程度を調査し、修繕による長寿命化を図るか、改築を行うかを総合的に判断し、計画的に管路の改築を進めていきます。
- 改築事業量については、段階的に増加させていく予定であり、令和元年度は、25.6kmの改築を実施しました。

管更生工法による老朽管の改築

昭和初期に整備した下水管（老朽管）



(改築前)



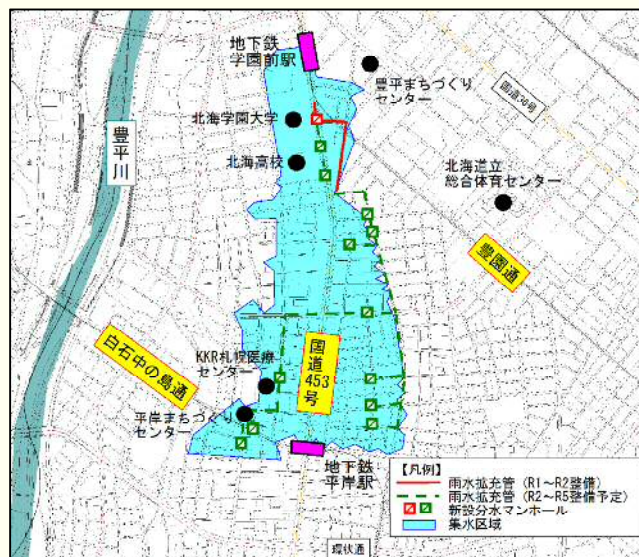
(改築後)

3 令和元年度決算の主要事業

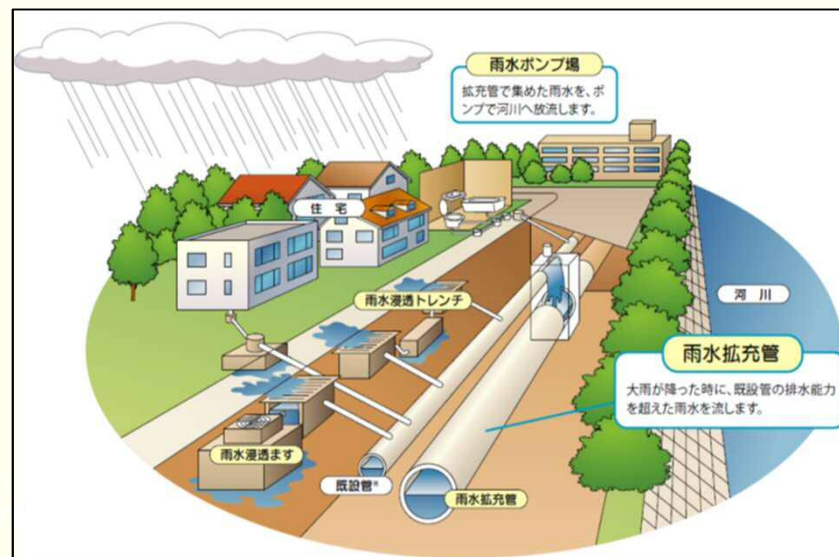
【下水道施設の災害対策(雨水対策)】雨水拡充管の整備

- 近年の全国的な集中豪雨の増加や都市化の進展により、浸水の危険性が高まっており、浸水対策事業の早期の推進が求められています。
- 札幌市では、国の補助事業である「下水道浸水被害軽減総合事業」を活用し、令和元年度から令和5年度までの期間で、平岸地区における雨水拡充管の整備を行っています。

令和元年度整備箇所図



雨水拡充管イメージ図



4 札幌市下水道事業の課題と取組

【課題】財務体質の強化

- 今後、老朽化した下水道施設が急激に増加することから、将来的な建設事業費と維持管理費の増加は避けられません。
- 一方で、今後、札幌市の人口は減少に転じる見込みであり、現行の料金体系に基づく推計では、下水道使用料は将来的に大きく減少する見通しです。
- このため、財政状況は厳しさを増していく見通しです。



主な取組

- 改築基本方針に基づいて、計画的な維持管理及び改築を行います。
- 処理施設の土木・建築構造物の改築にあたっては、将来の人口減少を見据え、処理施設の統廃合などによる施設規模の適正化を検討します。
- 業務を効率化するための新たな取組を検討します。
- 国の交付金制度を積極的に活用するほか、用地など下水道事業が持つ資産の最大限の活用を検討します。
- 徹底したコストの縮減や収入を確保する取組などを実施した上で、適正な受益者負担について具体的に検討します。